長崎から世界遺産を！

～「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録に向けて～

はってん談話室

長崎県知事
金子原二郎
KANEKO GENJIRO

カトリック長崎大司教
髙見三明
MITSUAKI TAKAMI

今年一月、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の世界遺産暫定一覧表に[※1]「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が登録された。
今後、地域の宝物を「世界の宝物」とするため、県、各市町、所有者、県民が力を合わせて本登録を目指す。
今回は、カトリック長崎大司教区の髙見三明（たかみ みつあき）大司教を迎え、長崎の教会群などが持つ魅力と価値や、
本登録に向けた取り組みについて語っていただいた。

写真提供／長崎新聞社

世界遺産暫定一覧表への登録決定

金子／世界遺産暫定一覧表への登録では、髙見大司教はじめ教会関係者の方々にもお力添えをいただきありがとうございました。県では、県民の皆さんの本登録に向けた気運を盛り上げるために各地でシンポジウムを開いたり、各資産の保存管理計画の作成を市町とともに進めます。他にはない長崎のキリスト教の歴史が、大きな注目を集めていますが、本登録へ向けて今後もよろしくお願いいたします。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」のシンボルマーク

髙見／私達もたいへん嬉しく思っています。私は高校を卒業後、福岡や国外での生活が長く、司教として五年前に長崎に戻って来ました。その時、民間の皆さんが[※2]「長崎の教会群を世界遺産にする会」をつくって活動されていることを初めて知りました。これまで身近な存在だった県内の教会などが、世界遺産を目指すことに期待もありましたが、果たしてそれだけの価値があるのか不安もありました。しかし、会の皆さんや県の関係者の方々の熱心な活動で、世界遺産が一挙に現実味を帯びてきたと教会の皆さんとともに喜んでいます。

金子／県内には百三十以上もの教会があって、その中には、国宝・大浦天主堂をはじめ国内外での価値の高いものも多くあります。私も世界遺産が実現すればすばらしいことだと考えていました。

　民間の皆さんの活動の様子をうかがい、県としても積極的に取り組みたいと考えていましたので、三年前、パリを訪れた時に、ユネスコ本部で松浦晃一郎（まつうらこういちろう）事務局長をおたずねしてアドバイスをいただきました。松浦事務局長からは、天草なども含めた、地域の広がりのあるキリスト教関係の物語性を訴えることが大事ではないかとご指導をいただき、長崎の教会群などへの高い評価に力づけられました。

髙見／昨年、県から「登録申請したいので協力してほしい」というお話があったときは、まだまだ先のことかなと思っていましたので、正直少しびっくりしました。さっそく、関係する教会の司祭や信者の皆さんにもご意見をうかがったところ、賛成してもらうことができましたが、それからあっという間の暫定リスト入りでした。

金子／今回の登録は昨年九月、国が初めて地方に提案募集を行ったのがきっかけです。ちょうどその頃、県では、地域の活性化や観光の振興のために国内外に誇ることのできる多彩な歴史・文化を活用できないかと考えていました。そして、「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」を立ち上げて、第一弾として、歴史ガイドブック「旅する長崎学～キリシタン文化編」の発刊を進めていました。そのため、二ヵ月余りの短い募集期間でしたが、歴史と文化の奥深さとその価値を十分にまとめることができました。本県のストーリー性のある提案書は文化庁長官などからも高い評価をいただきましたが、このガイドブックが果たした役割はとても大きかったと思います。[※3]

髙見／私も「旅する長崎学」を読ませていただきましたが、歴史上の細かいところまでとてもわかりやすくまとめられたガイドブックです。この本によって、長崎のキリスト教の歴史を多くの皆さんに知っていただくのは、とても意義のあることだと思います。

金子／ありがとうございます。「旅する長崎学」は、今後、「キリシタン文化編」の韓国語版も作って、巡礼で本県を訪れる方が増えている韓国へのＰＲに活用していきますし、間もなく二つ目のシリーズとして「近代化の遺産編」を発刊いたします。[※4]

髙見／本県には、歴史的にも文化的にも価値の高いものがまだまだたくさんあると思います。長崎出身の私としても、ふるさとの魅力を県民の皆さん自身にも知っていただきたいし、国内外にも発信してもらいたいと思います。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の魅力と価値

金子／髙見大司教は、長崎市のお生まれだということですが、やはり、幼い頃から教会に通っておられたのでしょうか。

髙見／私は、学校から帰るとかばんを放り出して、友達と野山を駆け回り、日が暮れるまで遊んでいるような普通の子どもでした。しかし、両親が熱心なカトリック信者だったので、私も生まれてすぐに洗礼を受けました。幼い頃から自宅近くの教会に通い、ミサで神父様のお手伝いをしていましたが、小学校の高学年の頃には、なんとなく神父様の姿に憧れを持っていました。

　その後、中学二年生の時に父から司祭になるよう勧められて、中学三年生から長崎公教神学校で共同生活をしながら学校に通い、高校卒業後は福岡の大神学院で本格的な勉強を始めました。

金子／実は、私の実家もキリスト教との関わりがあります。かくれキリシタン[※5]の信仰が今でも受け継がれている平戸市生月町の出身ですが、私の実家もかくれキリシタンで、仏壇の後ろに「納戸神様」と呼ばれる御神体を飾っていました。そして、子供のころ、正月やお盆には、オジ役などの信徒の役付の皆さんが拝みに来ていたのを覚えています。県内には自分たちの信仰を迫害から守り抜いてきた地域がたくさんあって、教会や関連遺産は、そのような長崎のキリスト教の歴史を語り継いでいます。

髙見／確かに、国内でも、世界的に見ても、本県のキリシタンの歴史は特色のあるものです。私は二十六歳で司祭になった後は、神学や聖書を学ぶためにイタリアやフランスなどに留学していました。そういった国々の人にとって長崎は、先ず「殉教の地」ということやその歴史的な背景はそれほど広く知られていませんでした。

金子／長崎のキリスト教の歴史の特徴は、迫害と殉教、そして復活というストーリー性です。暫定一覧表に登録されたのも、世界的にも忘れられてはならない物語があったからだと思います。

※1「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」
県内の12カ所の教会群と8カ所のキリスト教関連遺産で構成され、平成18年11月29日に文化庁へ提案書を提出、平成19年1月、ユネスコの世界遺産暫定一覧表に登録された。
●ホームページ　http://www.pref.nagasaki.jp/s_isan/

※2「長崎の教会群を世界遺産にする会」
平成13年9月、長崎の教会群を世界遺産にすることを目指して設立した民間の団体（会長：林一馬 長崎総合科学大学学長）。

※3 歴史ガイドブック「旅する長崎学～キリシタン文化編」
県内の歴史文化遺産を広く発信し、交流人口の拡大を目指す「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」の第一弾企画。各地の文化や歴史にストーリー性をもたせることで、その価値や魅力を高めている。
●ホームページ　http://tabinaga.jp/

※4「近代化の遺産編」
歴史ガイドブック「旅する長崎学」の第二弾企画。明治維新後、急速に近代化を遂げる日本の原動力となった長崎県の姿を、様々な視点から紹介する。

※5「かくれキリシタン」
禁教令（1614年）が発令され、寺の檀家となりながらも、キリシタンを信仰し続けた者を「潜伏キリシタン」と呼び、その中でも明治6年（1873年）に宗教の自由が認められた後、従来の信仰形態を維持してカトリック教会と接触しなかった人々を「かくれキリシタン」と呼ぶ。